

# 樹医からのアドバイス (Vol.13)

～冬にやっておきたい「寒肥」～

出雲市樹医センター

樹医 榎野 浩二郎

寒い時期に肥料を与えることを「寒肥」と書いて「かんごえ」または「かんぴ」と言います。冬季に有機質肥料を与えると、微生物によってゆっくりと分解し、春に植物に吸収されやすくなり効果的です。

## 【植物に必要な要素】

植物の成長に必要な養分は16要素あり、その中で特に必要なのはチッソ（N）、リン酸（P）、カリウム（K）で、「肥料の三要素」と言われています。チッソは主に葉や茎の成長に必要で、リン酸は花や実の付きを良くし、カリウムは根の張りを良くします。（N、P、K＝葉肥、実肥、根肥）有機質肥料はそれぞれの要素を含み効果的で持続性があります。

## 【有機質肥料の種類】

有機質肥料には油粕、鶏糞、骨粉などがあり、堆肥と混合して与えると土壌も改善され効果的です。温度が高い生育期に有機物を与えると腐敗が進み逆効果になります。また、サツキなどの観賞する花は、チッソ分が多くなると花付きが悪くなるので、鶏糞や骨粉などリン酸を多く含む有機質肥料を与えると良いでしょう。

## 【寒肥のしかた】

木の枝下辺り（樹冠下）を20cm位輪状や、車状、壺状に掘って有機質肥料をすきこみます。掘れない場所は金棒などで数か所穴をあけてその中へ入れる方法や、スコップを突き刺し、土を起こしたその隙間に入れる方法などは、簡単で効率が良いでしょう。

